

令和7年度 獨協医科大学大学院医学研究科入学者選抜試験
専攻科目試験 先端外科学（整形外科）

・意図

ロコモティブシンドロームは運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態を指し、その対策は超高齢社会における健康寿命延伸の鍵となるという点で重要である。以下の点を確認し適性を総合的に評価することを意図し、本記述式問題を出題した。

- ・ロコモティブシンドロームについての基礎的理解と問題意識（概念、超高齢社会における意義、サブスペシャリティ領域における具体例と課題等）
- ・運動器疾患領域における一定の知識と臨床経験
- ・臨床的視点から学術的課題を抽出する能力と、課題に対する論理的思考力ならびに表現力

・解答

ロコモティブシンドローム（ロコモ）の概念と超高齢社会における意義が理解されたうえでの回答となっていること、運動器全般ないしは特定領域における具体例を挙げて課題と解決の方向性について論理的に述べられていることが、解答の条件となる。

ロコモに関するキーワード例：

移動機能低下、要介護リスク、超高齢社会、ADL/QOL、機能予後・生命予後、健康寿命、医療経済など

課題例：

ロコモ認知度向上、予防医療と早期介入の必要性、運動器を全身的・機能的に捉えた診療・研究の必要性、多職種連携および地域包括ケアとの連動等。特定の領域を対象とした場合の例としては、変形性関節症、変形性脊椎症（腰部脊柱管狭窄症を含む）、骨粗鬆症ならびに骨粗鬆症性骨折、がんロコモ、こどもロコモ、等。ロコモに関連したものであれば、より具体的・局所的な疾患・外傷を対象に論じて可とする。